

都道府県別賞一等

### 祖母の笑顔

鳥取県 鳥取大学附属中学校 三学年

仲倉 準翔

僕の祖母は優しく、僕たちをいつも笑顔にしてくれる。

そんな祖母が初めてガンと診断されたのは、僕がお腹の中にいるときだった。出産で実家に帰った母が、祖母のしんどそうな様子を見て急いで病院に連れて行ったそう。診断の結果は、大腸ガンのステージ4、ガンだけでも突然のことですぐには受け入れられないのに、ステージ4か……。大きなお腹を抱えた臨月の母は大変なショックと、これから迎えるお産の不安とでいっぱいだったらしい。

祖母はすぐに手術をし、入院中に僕は生まれた。祖母は、「治療はとつてもつらかったけど、生まれてきた赤ちゃんに早く会いたくて頑張れたよ。」と教えてくれた。「この子が七五三まで生きられるかな。」といていた祖母も、抗ガン剤治療のかいもあり、すっかり元気になった。

それから十二年がたち、僕が六年生のときだった。平穏な日常を過ごす祖母に、二個目のガンがわかった。人間ドックで腫瘍が見つかり、別のガンと診断されたのだ。再び家族が不安に包まれた。しかし、今回は早期発見をすることができて、祖母は検診に感謝していた。

再び元気を取り戻した祖母だったが、僕が中学二年生の昨年、体調不良が続いた。嫌な予感だったが、検査の結果、三個目のガンと診断された。何度経験してもガンの宣告は、本人にも家族にも大変つらいものだった。これまで、二度もガンを乗り越えてきた祖母だったが、さすがにつらそうだった。前回のガンは検査で見つかったこともあり、しんどい姿を見ていなかったが、今回はとてもしんどそうだったので少し不安だった。僕はショックだったが、祖母もつらいのだから落ち込んでいる姿は見せたくなかった。

入院中はコロナ禍で面会もできず、祖母が元気になるために、家族全員ができる限りのことをして励ました。

ただ今回の抗ガン剤の治療では髪の毛が抜けてしまったため、祖母は悲しそうだった。でも、ウィッグをつけて、また以前のような笑顔を見せてくれた。

祖母は、現在も抗ガン剤治療のために通院しながら、僕たちを笑顔で見守ってくれている。

祖母の病気を通じて僕が強く感じたことは、生命保険の大切さだ。祖母は「今、こうして安心して治療が受けられているのは、生命保険に入っていたおかげだよ。」と教えてくれた。もし、この保険がなかったら、私たち家族は、経済的不安と

## 第62回中学生作文コンクール

闘いながら、祖母の病気と向き合わなければならなかったかもしれない。今回のような大きい病気の場合、長期にわたる治療が続くため、精神的・肉体的負担はもとより、経済的負担も大きい。

何度も心が折れそうになる中、病気と闘う本人や家族にとって、治療費や入院費を心配することなく、しっかりと治療に専念でき、ベストな治療を受けられる安心感はとても大きい。いつも心の支えになってくれていたことに改めて気付いた。髪が抜けて誰にも会いたくないときも、生命保険のおかげで安心して個室に入院できたそうだ。

祖母は若い頃「お守り」のつもりでガン保険に加入したらしい。

保険は、「もしも」のときの病気や事故など予期せぬ出来事に備えるためのものだ。健康なときは、その存在を意識することは少ない。いざというときに初めて、その価値がはつきりわかるのだと思った。僕もこれから先、自分自身の未来のために、必要な保険を準備しておくことが大切だと痛感した。

祖母が三度のガンを乗り越え、今笑っていられるのは、医療の力も大きいかもしれないが検診の重要性をはじめ、祖母自身の病気と闘う心の強さ、そしていつもそばで支えてくれた生命保険のおかげだと思う。